

2022年11月吉日

一般社団法人 繊維学会
会員の皆様

一般社団法人 繊維学会
会長 荻野 賢司

繊維系三学会統合に係る臨時総会の結果を踏まえて

拝啓

このたびは、二年半に及んで時間と労力をつぎ込んできた繊維系三学会の統合に関し、日本繊維機械学会様、日本繊維製品消費科学会様では正会員の2/3以上の賛成により可決されたところ、本会では理事会において統合に賛成する旨の議決を行い、続いて正会員の皆様に承認を頂くべく、議決権行使による投票票を行いました。2/3以上の賛成を頂くことができず、承認に至りませんでした。混乱の中、意志を表明いただいた会員の皆様、これまで三学会統合に向けてご尽力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

繊維系三学会の統合については、統合検討会議において三学会統合の共通認識が醸成され、本会においても、繊維関係者の叡智を結集し、さらなる学理の探求と繊維を軸とした学術・文化・産業のイノベーション促進により未来社会を見据えた価値創造を強力に推進していくという理念の下、理事会において統合に賛成する方針と係る臨時総会の開催を議決しました。しかしながら、臨時総会における正会員による議決権行使において必要な賛成票が得られなかったことについては、理事会として、会員の皆様に対する三学会統合の意義の説明や情報の提供に関しての努力が不十分であったと言わざるを得ません。

また、本会理事会では、統合に対して議論が十分でない、議決権行使は時期尚早である等の慎重意見も散見され、合併案承認の決議も満場一致とはなりません。理事会内部を纏めきれず、プロセスを進めることに重きを置いた小職の判断に対して、少なくない会員の皆様からの信頼を失ったものと考えられます。本来は理事会メンバー全員が、一体となって決議事項の推進に注力しないといけないところ、様々な懸念事項が表明され、それを払拭することができなかった責任も痛感しております。今回の一連の結果を踏まえ、繊維学会として諸問題に取り組んでいくためには、現体制の理事は全員が退任し、新しい会長の下、新しい理事会を結成し、体制を刷新させる必要があるとの結論に達しました。この方針については令和4年9月17日の理事会において全会一致で賛成が得られ、次回総会で新体制が発足することとなります。

繊維に関わる産官学を取り巻く環境や、統合検討会議での議論で明らかになった改善の機会については、何ら変化しておりません。繊維学会としては、新体制の下で運営基盤を固め、将来構想についても引き続き検討しつつ、会員の皆様の声を聞き、これまで以上に会員の皆さんに寄り添ったより良い学会となるように努めてまいります。学会運営に関しての諸問題の解決に注力できず、会員の皆様に多大な不安を与え、混乱を招いたことに対しまして、あらためてお詫び申し上げます。

敬具